

みんなの議会

2012年4月
第49号



縁の下の力もち
炊出し部隊



映画「ゆきものがたり」
ロケ終了!!



主 な 内 容

平成24年第1回定例会議案	P 2
議決された意見書	P 2
一部事務組合議会の紹介	P 3
町長への一般質問	P 4～P 7
教育長への一般質問	P 8
議会の動き		
議員セミナー	P 8
総務民教常任委員会	P 9
予算等審査特別委員会	P 10～P 11
みんなの広場	P 12
あとがき	P 12



沼田出身
ピグマリオンも出演

平成24年 第1回定例会 3月8～15日

三月八日から十五日まで
平成二十四年第一回定例会
が行われました。

上程された主な議案

総務民教常任委員会所管
事務調査報告があり、委員
長報告のとおり了承されま
した。(詳細九ページ)

十二月定例会で総務民教
常任委員会に付託された『原
発依存からの脱却を求める
陳情書』について委員長よ
り採択すべしとの審査報告
があり、了承されました。

◎二十三年度一般・特別会 計補正予算

地方交付税の確定や不用
額の精査等を行い、歳出で
は小学校改築及び学童保育
所整備等の工事減に伴う継
続費の補正、公債費の補正
が主なものです。

◎おもな条例改正

- ・グループホームなごみが特別会計となります。
- ・沼田町介護保険条例の一部を改正(三百円あたり、三千五百六十円となります)
- ・沼田町課設置条例の一部改正(地域開発課を分割して、政策推進室と商工観光課になりました)
- ・町税条例の一部改正(たばこ税の改正)
- ・町営バス運行に関する条例の一部改正(雨竜役場前から碧水市街に変更)

◎公平委員の選任

・大三島 茂氏が再任されました。

◎二十四年度一般・特別会 計予算

議会では津川副議長を委員長とする予算等審査特別委員会に付託し、意見を付して承認しました。(詳細十ページ)

第二回臨時議会

二月九日

本年度の豪雪により、除雪費が千二百万円追加補正されました。

第三回臨時議会

三月二十三日

震災復興特別交付税を中・北空知廃棄物処理広域連合に負担金として千九百四十万円。その他に除雪費九百三十万円などの追加補正がありました。



町政執行方針を説明する金平町長

議決された意見書

原子力発電依存から自然エネルギー活用への計画的転換を求める意見書

東日本大震災によって、被害を受けた東京電力福島第一原子力発電所では、大量の放射能がもれだす重大事故が発生し、地域住民・地域社会はもとより国内産業にも大きな影響を与えています。この背景には、放射性廃棄物の処理方法が確立しないままに急いで進めてしまった原子力政策があります。放射能汚染が未来の日本を担う世代への影響が懸念されます。原子力発電に依存した政策を改め、再生可能な自然エネルギーへの計画的転換を推進するよう強く要望しました。

一部事務組合議会の紹介

一部事務組合議会とは

単独の市町村だけでは完結できない水道・消防・ゴミなどは広域で処理する必要がある。そこで、関係する市町村が組合を作り、それぞれに町長や議員を派遣して、議会を構成しています。今回は、派遣されている議員に課題などを報告してもらいました。

水道企業団議会

杉本・津川議員

この議会は1市4町で構成しています。

創業時借入金償還や地域人口減が続く中、水道料金の安定・安価の為H18年度から10年計画で健全化・効率化計画中です。

課題として職員の定員割れと高齢化、耐震工事や建設改良工事、修繕工事は借入金返還後の計画となっています。

学校給食議会

中村・久保議員

沼田町にある給食センターは、沼田だけではなく、北竜・雨竜・秩父別の4つの町の子供たち873人の給食を作り、配送しています。

45年経過した施設の老朽化が課題となっています。



中・北空知廃棄物処理議会

高田議員

この議会は、中北空知の十四市町で可燃ゴミの焼却処理を行うための、広域連合議会です。

平成25年4月からの稼働を目標に、現在焼却施設の建設を進めています。施設完成後は、運営全般についての審議を行います。

消防議会

上野議員

この議会は幌加内を含む1市5町で構成しています。

昨年の沼田町の救急出動回数は127件あり、125名の方が搬送されました。

又、ドクターヘリでは、今年の大雪により、9件多い11名が搬送されました。

衛生センター議会

長原議員

この議会は、深川・妹背牛・秩父別・北竜・沼田の1市4町で組織し、管内の可燃ごみ、生ごみ、不燃ごみ、資源ごみ、粗大ごみを処理するための組合議会です。

沼田町は一年に、ごみの負担金、3,000万円、し尿処理に1,000万円負担しています。ごみの減量が課題です。

衛生施設議会

鶴野議員

この議会は、妹背牛・沼田・秩父別・北竜町で構成しています。

ここでは不燃ごみ・粗大ごみなどを埋め立てる処分場と浸水処理施設の管理、運営をしています。

ごみ処理の基本は減量ですが、最終的に焼却処理しても処理できないごみはここで埋め立てます。

まちづくり

特別委員会

委員長 津川 均
副委員長 渡辺敏昭

議会では、沼田町の公共施設の今後のあり方を、調査する「まちづくり調査特別委員会」を立ち上げました。

この委員会は、議員全員により、病院問題を中心に、老朽化した町内施設の今後の姿を模索し、安心のまちづくりを調査するものです。

同時に農産加工場やほたる館等の町関連施設の今後のあり方も対象にしています。

過去の特別委員会や有識者報告、職員検討委員会答申等を再検討し、さらに「議会懇話会」等を通じて、町民の意見等も取り込んだ委員会運営を考えています。

町長への一般質問

問 幼保二重保育保護者の負担軽減をすべきだ

答 昨年、保育料の軽減を実施した



高田 勲
議員

問 町長は町政執行方針で「幼保一元化に向けての検討を再開する」と述べました。これは沼田町の幼児教育における、二十年

来の懸案事項であります。沼田町では町立の幼稚園と私立の保育園がその役割を分担して来ましたが、保護者は「幼児教育の充実」と「長時間保育」の両立を望んでいます。幼稚園が終わった後に、保育園で保育を受ける二重保育は、五年前は二十%程度だったものが、今は四十%を超えています。

沼田町で「幼保一元化」が進まなかった理由はあると思いますが、時代遅れに

なった仕組みに手をつけなかった行政にも責任はあります。

一定の要件のなかで、二重保育に対する保育料の支援をどうするか。



保育
園の保
育料に
関して
は、

国の基準利用料の三十%を軽減しています。更に昨年の七月から所得階層を十五段階層に細分化して、不公平感が無いように保育料の軽減を実施しました。国は「総合こども園」構想を打ち出し、幼保一元化を進める



共生保育所入園式

ようです。これらの制度を利用しながら、沼田町に合った幼児教育体制を二年間程度かけて構築したいと思っています。

保護者の方々の思いは理解いたしますが、二重保育に係わる新たな支援については、現在考えていません。

問 幌新温泉の「親方日の丸」体質は遺憾

答 補填がかさむようであれば、

民間委託も考える



中村 保夫
議員

問 金平町長の初めての予算書を拝見させていただきました。

予算委員会の前に、総括的に質問させていただきます。

老人費と子供費のどちらにウエイトを置こうとしているのか。

年来の、議会提案であった農産加工場新商品開発費の具体的なプランを伺います。

幌新温泉は、町の観光と福祉の施設として、ある程度の赤字は容認するとしても、将来どのような経営形態が望ましいと考えているか伺います。

全体を見て、前政権との違いが見えない。「ここが

違う」というところを伺います。

最後に、今年の予算の目玉はどれか伺います。



ご存知のように、町の財政は、老人費と子供費といった分類をしておりますので、お答えできません。

農産加工場では、プレミアムトマトジュースの開発を手がけていきます。

幌新温泉に、「親方日の丸」的な意識があるとすれば、戒めなければなりません。二十四年度も補填額が計画を上回るようであれば、二十五年度以降、民間委託も含めた抜本的見直しも必要だと考えております。

この予算では、前政権との違いも、大きな目玉政策も、なかなか見えにくいかもしれません。二十四年度以降の色んな施策の原点になると思っています。

**問 町長が掲げた基本政策を
どの様に組み入れたのか**

答 政策推進室を立ち上げ検討させる



之 範 野 鶴 議員

問 就任時、町政執行方針の中で総合計画基本構想の実現に向けた実施計画を既存事業の効果や効率性、必要性等について事業の見直しを行いたいとしたが、どの様にされたか。

更に、掲げた基本政策を取り組む上で予算にどう組み入れたか、四項目についてお伺いします。

① 希望の持てる農業政策の確立・第八次農業振興計画でどのように組み込まれたか。

② 地元で安心して買い物ができる商業振興・商店街の集客力を上げる事、観光の振興をどう描いたか。

③ 幼・保・小・中学校の教育環境の改善・良好な教育環境とは、学力向上に

向けどう取り組むか。

④ 町民が安心できる医療体制の維持・具体的に現在どの様に考えているか。トータル的に何も方向性が定まっていけないのではないか。



予算編成にあたり既存の事業の点検を行い、予算を積み上げました。

主な改善点として、「新

エネルギーの開発・雪の取り組み」「加工場の整備」「特定健診の受診率の向上」「高齢者のハイヤー助成、利用改善」などが重点的な政策の見直しです。

農業政策については第八次農業振興計画はまだ策定中であり、方向性が定まっています。

地元の買い物物の問題については商工会とも懇談をしているが、妙案は見出せていません。

ただ、議員がおっしゃっ

たようにJ.Aの店舗改築問題などを含め総合的な商業施設などを検討したい。

良好な教育環境については指導体制と学校備品の充実をはかりたい。

医療体制は、老朽化した病院の立て直しを前提に今年議論していきたい。

今回、政策推進室という課を設置し、スピード感を持って取り組みたい。

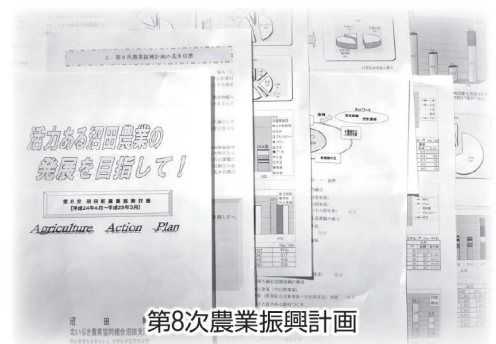
問 鹿対策についてどう考えているか

答 今年対策委員会で総合的に検討したい



己 勝 内 繪 議員

問 鹿による食害や、踏みつけによる農業被害が拡大傾向にあります。町としても対策委員会等により駆除に取り組んでいます。そのPRをしていただき、さらなる対策にスピードを上げて進むべきと思いますが、町長の見解をお伺いします。



第8次農業振興計画

平成十九年から農業者、猟友会の皆さんにより沼田町有害鳥獣対策委員会を設置して、くくり罠を中心に道内でもいち早く取り組んできました。

狩猟免許を持っている方が三十六名、罠の保有数百二十六基で取り組み、今までの鹿の捕獲が八十六頭と なっています。

このように、くくり罠が一定の効果があると理解をしています。

ただ、近隣ではフェンスなり電牧柵による大規模侵入防止策をとっております。

今後はそのような物が、豪雪地帯において持つのか、沼田町に合った取り組を検討するような、先進地の視察を行い原点に戻り対策を行いたいと思います。



増え続けるエゾ鹿

**問 「沼田町2014年問題」について
厚生病院と農協の築五十年、そして…**

答 今年、マスタープランを作ります



久保元宏
議員

問 一九六四年に沼田町に四つの大きな建物が建ちました。その中の公民館は、ゆめつくるに。商工会は観光情報プラザに更新されましたが、厚生病院と農協は、いよいよ二〇一四年に築五十年を迎えます。たとえ両者が民間であってもあと二年後であれば、町民に安心と希望を持っていただくために現段階での指標を整理し沼田町のブランド・デザインを示すべきであると思いますが。



町民が集まる農協前での献血

病院は老人ホームとの補完関係としても重要だと思えますが、いかがですか。

また財政課が沼田小学校の新築にかかる大きな経費を複数年で計画的に準備されてきた手腕で、現在、早期財政手当を進めている新規プロジェクトに厚生病院や農協の建て替えは含まれていますか。

その財政を長年担当されてきた課長と、厚生病院の院長が引退される時期が迫っているのも、もうひとつの「沼田町2014年問題」です。その全てを複合的に計画されていますか。



今年マスタープランを作り、その後にはランドデザインを示します。両施設は必要ですし、旧中学校の跡地などの問題も含めて総合的に検討を進めます。

大きなプロジェクトは、事前

財政課長

大きなプロジェクトは、事前

に財源の見通しを立てて計画性を持って将来の住民負担を少なくする財政手法を取ってきています。小学校新築も事前に五億円の基金を積み立てました。

病院にも、医療確保として基金造成をしています。

保健福祉課長

町の老人ホームの入居者は多くが高齢者です。厚生病院の外来数は今

後も大きく変わらないと思います。

また今年、町は健康運動指導士を新しく置きますが、これは病院の理学療法士と両方兼ね備えて町民の健康作りに必要です。

農業委員会

農業者が農協に求めるものは大きく、集える施設は必要です。一般町民にとっても憩いの場です。

問 沼田町に「農業機械学校」を開設してはいいかがか

答 農家がどこまで求めているか不明
現状では難しい



上野敏夫
議員

る学校を新設してはいいかがでしょうか。

その建物として、旧沼田中学校や工業団地の東海アルミ箔の空き家などを活用してはいいかがでしょうか。

冬期間のみの開校でもかまいません。整備する材料は沼田町にありますので、プロの先生を招いて学べる町にすることによって、若者が流れてくると思います。町長も、もう少し前向きに

問 札幌に北海道の農業機械工業会があります。ここには複数の農機具会社が出資して、機械の新製品などを農家に教えてくれる先生がいます。このような機関と連携を取って、沼田町に農家に機械を教え



機械なしで、沼田農業は成り立たない

調査をしていただき、少しでも人口を増やすために考えていただきたい。

農業機械工業会の情報を持っていないので、今後、農協や農業者の意見を聞き、情報を収集いたします。

ただ実施、運営、維持管理など経費がかかります。民間の農機具会社との折り合いも考慮せねばなりません。

問 高齢者のための

福祉電話を設置出来ないか

答 不便をかけない対応を考えたい



長原 誠
議員

問 本年度、町制執行方針の中で、在宅福祉の

向上を図るべく、高齢者対策が示されていますが、高齢者が身近な問題として市街地の公衆電話が少なくなり連絡に不便を感じています。

町民がよく利用する観光情報プラザ、ゆめつくる、農協にも公衆電話がないの

が現状です。このことは高齢者のみではなく携帯を持たない子供達にも同様に不便な状況にあります。行政で、電話の設置ができないか町長の見解を伺たい。



昨年、NTTより利用料の少ない公衆電話を撤去する連絡があり、役場の中で対応を協議させていただきました。現在の設置状況は、駅前と郵便局の外、和風園、厚生病院の中の四ヶ所しか緑の公衆電話はありません。



駅に残ったテレホンボックス

これらを踏まえそれぞれの施設のふれあい、ゆめつくる、町民会館も含め検討いたしました。ピンク電話の設置も考えましたが、電話機及び設置工事費、電話基本料など大きな負担がかかることからそれぞれの施

問 沼田町の長期的展望を

示していただきたい

答 町民の健康と安心安全を

保障する事を基本にします



渡辺 敏昭
議員

問 町長の基本理念は、

『今住んでいる人を大切にしたい』ですが私には町としての長期的展望が不足しているのではないかと、下向きな守りに入った町政に終始してしまうのではないかと、その様に感じられま

す。町づくりの基本は未来展望にあるのではないかと、十年、二十年先の金平町長が

設の電話を利用して頂くことで不便のかわからないサービスを考えています。又、農協、商工会それぞれに協力して頂き、高齢者に不便をかけない対応を考えていきたい。

描く沼田町の姿を伺いたい。



「今住んでいる人を大切にしたい」が私の政治姿勢です。長期展望の基本は「沼田町第五次総合計画」であります。

この計画に沿って予算編成をさせて頂き、様々な政策を年次的に行っていく予定です。この中で緊急的な課題である病院問題、農協の問題、加工場の問題などは早く取り組み、長期的な問題は割り振りをして実施する考えを進めてまいります。

「今住んでいる人を大切に」をキーワードとして、



町民が健康で生涯に渡って生活し続ける事、これが最も大事なことです。農業、商工業など経済活動をしている方も健康が損なわれてしまうと更に大きな損失につながります。今年の取り組みがすぐ結果が現れるものではありませんが、五年、十年先を見据えなければならぬと思っております。これに特化した事業を二十四年度は実施したい、これが将来的に沼田の経済全体の基礎になると思っています。沼田の町民の健康と安心安全を保障する事が私の一つの仕事でないかと思っております。

教育長への一般質問

問 中学校の柔道授業における安全確保は十分か

答 指導体制の充実をはかりながら実施している

高田 勲議員

問 新学習指導要領のもとでは、中学校の一年生と二年生に武道の授業が義務づけられており、本町でも本年度から柔道の授業を実施していると伺っています。

最近、中学校における柔道授業の安全性を疑問視する新聞報道が何回かありました。

本町における柔道授業の実施状況はどうなっているのか。また、指導者は各種講習会を受講しているのか。一部では、危険度の高い投げ技を禁止したり、頭部を保護するヘッドギアを着させている地域もあるようです。本町においては安全の確保をどのようにはかっているのか。

教育長

現在沼田中学校では、一年生から

三年生までが三学期中に延べ十時間の柔道授業を受けています。

指導する教員は、初段位の資格を持つ柔道経験者です。道教委の実施する実技講習会や、安全対策の講習会も受講をしております。

保護具等の導入は考えていませんが、事故が起こりえる事のない指導体制を取っていきたくと考えています。生徒の体力や力量に合わせた指導に心がけ、必要であればTT（複数教員による授業）を活用して、きめ細かな指導の中で安全を



今議会から質問席を設けました。

議会の動き

議員セミナー

平成二十四年二月九日

二月九日、全議員出席による議員セミナーをおこないました。

「平成二十二年度健全化法による四指標」と「健全化判断比率」について財政課長から説明を受けました。

地方公共団体の財政に関する法律が平成十九年六月十五日に成立、平成二十一年四月一日に施行されました。これに伴い財政の早期健全化、財政の再生、公営企業の経営の健全化を図ることを目的としています



- 実質赤字比率
- 連結実質赤字比率
- 実質公債費比率
- 将来負担金比率

以上の内容について詳細に説明を受けました。

次に、道内市町村における健全化判断比率について沼田町の現状の話があり、実質公債費比率一〇・三と全道百七十九市町村で百五

十二番目、将来負担比率が発生しない町で財政状況として健全であるとの事でした。

この後、地方公会計制度とこれからの自治体会計についての説明、制度のスケジュール、表作成のしくみ、公会計における業務分担、財務四表の作成と範囲等の説明を受けました。

総務民教常任委員会

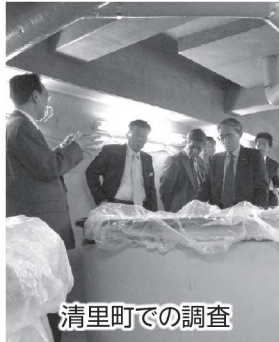
所管事務調査報告

委員長 高田 勲
副委員長 久保元宏
委員 中村保夫
長原 誠
津川 均

調査項目◎地域資源の活用について

我が町が築いてきた多くのコンテンツを有機的に結びつけ、広く町全体で産業化を進めることが重要であり、そのためにはまず雪と米に特化した農商連携・六次産業化を進めるべきと意見をまとめました。

以下の意見を付し、調査報告いたします。



我が町は恵まれた自然環境と先人の知恵により、基幹産業である米の品質が高評価を得るまでとなりました。一方、商工会などの地域おこし活動は斬新かつ行動的であり、我が町のイメージ作りに大いに貢献してきました。

さらに地場産業がTPPなどで、国際競争力が試されようとしている今日、一次産品に付加価値を付けて将来に備える重要な時期にあると考えます。

記

1. 補助金事業への積極的な取り組み

行政は町内の各団体がより効果的に活動できるように、それぞれに適した国、道などの補助金メニューを積極的かつタイムリーに紹介しサポートすべきである。

2. 商工会と農協の垣根を超えた取り組み

沼田町を代表する事業は、どちらかの組織に偏らないよう全町横断型の組織である観光協会などが事業主体となるべきと考える。たとえば、「雪夏祭」は過去2度実地され本町の情報発信に大いに寄与しているが、全町的な盛り上がりやや欠ける傾向にあるので、観光協会が主体となった全町をあげての事業展開が必要である。

3. 「沼田ブランド」確立への取り組み

農産加工場のみならず、民間も含む特産品開発をトータルでマネジメントする予算を計上し、原料に恵まれた我が町の利点を最大限に生かす商品開発の場が必要である。また、農産加工場における小ロット生産化への取り組みは、開発した商品を最小リスクで販売するために不可欠であり、発想の転換と技術力の構築を望むところである。

4. 情報発信力の構築と積極的な活用

「沼田ブランド」の企画、生産、流通などの過程に町内の複数の組織や世代を参画させ、同時に企画の初期から東京などの有名人や有名飲食店に加わってもらい情報発信力をつける。そこで作られた沼田ブランド製品を、「夜高あんどん祭り」や「雪夏祭」などで情報発信をするような事業展開を望むものである。

また、農産加工場そのものを観光施設にして観光客を取り込む情報発信を行い、企画から消費までのサイクルを町内に確立し「商品力」を強化することが必要である。

次回の調査項目は『地域防災について』です。

平成24年度 予算等審査特別委員会

3月9日～14日

委員長 津川 均
副委員長 鶴野 範之

一般会計 48億円
特別会計 18億円
総 額 66億円

平成二十四年度予算が、三月八日の第一回定例会に於いて、予算等審査特別委員会に付託され、その委員会で、三月九日から十四日にかけて、審査が行われました。

付託された案件は、条例五件、予算九件で、一般会計予算総額四十八億円（前年度比一七・五%増）特別会計十八億四百六十七万円、総額は六十六億四百六十七万円の執行予算の審査です。

審査特別委員会は下記の二点の意見を付し、全案件を、承認しました。

意見書

新エネルギーの推進及び

利雪型新産業創出事業について

利雪への取り組みから十数年が経過し、また、「輝け雪のまち」宣言から十年を迎えた。町有施設やイベント等での雪利用はあるが、今後に向けては、食糧備蓄基地構想や町民が身近に雪エネルギーを利用できるような事業展開をすべきである。

地域提案型

まちづくり事業について

協働のまちづくりを推進する上で、本事業は地域コミュニティ活動の支援と住民の絆を深めるために極めて重要と考えます。使途の柔軟性をアピールし、地域活動のより活性化に寄与できるよう周知徹底すべきである。

今年の仕事と予算

今年の主な新規事業

- ◎ 今年度は「沼田町 第五次総合計画」の基本目標に沿って、「健康」「教育」「地域力」「防災」がキーワードで仕事がなされます。
 - ◎ 健康運動指導士を活用して、町民の健康増進を応援します。
 - ◎ 食育から元気ハツラツ生き生き生活を応援します。
 - ◎ 沼田小学校改築・学童保育所整備（二期工事）を推進します。
 - ◎ 沼田小中学校の教育環境の向上を進めます。
 - ◎ 沼田町教育総合アドバイザーを設置し教育力の底上げを目指します。
 - ◎ 防災無線放送施設を更新し、災害に備えます。
 - ◎ 役場庁舎の耐震化に向けて耐震二次診断を実施します。
 - ◎ 地域特性や時代に合った住宅施設を目指します。
- ★町民の健康運動指導事業 二、六〇三千元
 - ★住生活総合基本計画策定 六、二七八千元
 - ★除雪トラック購入事業 四六、一〇一千元
 - ★萌の丘千本桜植栽 三、八〇〇千元
 - ★防災無線放送施設更新 一〇六、四一九千元
 - ★役場庁舎耐震診断 五、六七〇千元
 - ★融雪施設設置助成事業 一、八〇〇千元
 - ★小学校・学童保育所整備 一、〇七四、五六三千元
 - ★情報通信機器整備事業 二六、六一一千元
 - ★イベント炊飯事業 二二一千元
 - ★スキー場圧雪車購入 二八、八七五千元
 - ★利雪新産業創出事業 三〇〇千元
 - ★農産加工場新商品開発 一、〇一四千元
 - ★ほたる館施設整備 二四、三七七千元

総括質問

三月九日から十四日まで、各課より説明が行われ、それらの中から総括質問として八件を再質問しています。付した意見以外の質問と答えを掲載します。



予算委員会での総括質問

農産加工品 新商品開発について

Q▶新たに新商品開発に取り組むこととしているが、現在の設備では開発、製造の限界も理解するが、発想の転換や積極的な取り組みが望まれるがどう取り組みか。

A▶新商品については継続的かつ有効的に計上し積極的に取り進める。



加工場の商品

農業まつりに ついて

Q▶農業を基幹産業とする本町において、町内外に向

け「農業のまち」をアピール出来るような取り組みを考えているか。

A▶農協青年部との懇談の中で開催に向けて前向きな話を聞いている。

計画協議を進めるうえで関係機関との連携も検討したい。

小中学校情報通信機器整備事業(ITC)について

Q▶事業の理解はするが、常に進化する機器の整備にあたっては買い取りよりもリース方式によることが望ましいのでは。

A▶財源を含め購入予算したところであるが、指摘のメリットと費用については再度、考慮し取り進めたい。

萌の丘千本桜の プロジェクトについて

Q▶「萌の丘千本桜植栽プロジェクト」として取り組みが将来展望、整備、観光をどのように考えるか。

A▶過大な投資は避けることを基本としており、ポップラ、つつじなどを含め植栽にあたっては相談したい。

夜間緊急テレホンセンター負担について

Q▶負担額の割合が平成二十二年年度緊急医療患者数で按分されているが、夜間急病テレホンセンター経費と休日当番医関係費をセパレートに計算すべきと思うがどの様に考えるか。

A▶町民向けPRについては三月末に新聞折込みが計画されている。費用負担については住民福祉、利便性、厚生病院との関係も含めこの一年間で考えたい。



桜の植樹風景

ほたる館、エレベーター設置について

Q▶投資に伴う費用対効果の考え方と、今後の経営方針について。

A▶平成九年に平家の館二階部分をバリアフリーに改装しており、利用者からの要望もあったことから二十四年度にエレベーターを設置する。

将来に向けての民営化については検討に至っていないので即答はしかねるが、町民の負担を掛けない方向で検討したい。また自動車学校との事業統合についても本年度検討し全体的な経営改善に努めたい。



エレベーターが設置される平家の宿

議会議務局長が交代

四月一日の人事異動で菅原秀史事務局長が商工観光課長（新設）として転出されました。

菅原局長は一年間の短い間でありましたが、有能ぶりを発揮し、議会をスムーズに運営してくれました。

「二年間、勉強になりました」との事ですが、議員も勉強になりました。更なる活躍を期待します。

後任には旭寿園から浅野信行氏が事務局長として着任しました。

元々、議会議務局経験が六年以上のベテランです。今後宜しく願います。



菅原・浅野事務引継ぎ



みんなの広場

「海外販路開拓事業」に参加して

商工会女性部長 松坂恵美子
料飲店組合長 竹見 洋子



吉住商工会長から、「沼田町の雪中米を台湾に輸出するので、いろんな食べ方を研究するように」との依頼がありました。

さっそくJ A女性部の植木支部長はじめ沢山の女性部の方々や専門アドバイザーの三宅曜子氏の協力で作成にとりかかりました。試行錯誤の末に決定したのが、「おこげ」で作った「お茶漬け」と「あんかけ」でした。この日本食イベントは経済産業省の支援を受けての事業であり、沼田町の農産物を使い、商品化することの責任の重さを感じました。

不安を胸に台湾に到着し、スーパー「裕毛屋」では「日本北海道沼田町深川市総合食品展示会」のポスターに迎えられました。極度の緊張のなか、イベントが始まりました。私たちは一人でも多くの方に試食してもらい、アンケートを取らせて頂きましたが、大変に好評で、苦勞がむくわれる気がしました。一方で、沼田から送った「雪」と川嶋菓子舗が焼く「雪ん子焼」も大好評でした。

2日間のイベントが終わりほっとしていると、スーパー「裕毛屋」店長はじめ店員さんから「お別れセレモニー」のサプライズプレゼントが店内で行われました。私たちは緊張が抜けた気持ちとスーパーの人たちの優しさと思いやりにふれ、胸いっぱいだなみだなみだの感動の中、送られて帰ってきました。

帰国後、専門アドバイザーの三宅曜子氏を迎えて、本事業の検討会が行われましたが「大変評判が良かった」と評価され、とても嬉しく思いました。

また、「どさんこワイド」をはじめテレビや新聞で取り上げられ、町民のみなさんからも「ご苦勞様」「テレビで見たよ」「お茶漬けやあんかけを食べたい」などといわれて、本当にやりがいがあったと思えました。

今、切々と思うのは、沼田の人口減少の中で、今回得た経験とチームワークを次につなげて行き、少しでも沼田町のために頑張っていきたいと思えます。今回この事業に参加させて頂き、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

あとがき

日本人の美徳の一つに、相手がすべてを最後まで話さなくても、また場が白けた雰囲気にならないように、察して動く事が、美しき習慣、文化としてきた（空気を読む）。

最近KY、空気が読めないという相手を読もうとするのではなく、相手にこちらに合わせるという意識が根底にある。相手に関心がないから、相手を理解していない。

では、議員が空気を読むとは町民が最後まで話さなくても理解しそれに動けることだと思ふ。それを我々の美徳だと思ふ。

空気が読めないとき、ひたすら話を聞くしかない。積極的に空気を読んで行動していきたい。

広報特別委員

中村保夫 長原 誠
鶴野範之 久保元宏